



# オウム被害に国が負担

## ―教団未払い賠償金25億円―

オウム真理教による事件の被害者救済をめぐる問題で、自民党の「犯罪被害者等基本計画の着実な推進を図るプロジェクトチーム」は被害者に対して国が賠償金を肩代わりすることを柱とした救済法案の概要をまとめた。

それによると「被害の特殊性にかんがみる」として

具体的には①オウムの犯罪は民主主義に対する挑戦であり、罪のない市民が、国の身代わりとなって被害を被った。②破産手続き中の教団による賠償は限界に達している。③一連の事件は外国で特別立法がなされた9・11テロ事件に匹敵する―といった点を挙げている。

被害対策弁護団によると、被害者への損害賠償金

烏山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

他党にも協議を呼びかける方針だ。  
(11月26日朝日新聞 読売新聞 夕刊より)

今回の救済法案はこれを受けたもので、民主党も同様の法案を検討しており、超党派による議員立法も視野に入れ、

や元信者のお布施の返還請求などを含めた教団の債務総額は約51億円。そのうち地下鉄サリン事件などの被害者への賠償金は約38億円で、教団は約13億円を支払ったが、破産管財人は「教団の賠償能力が低下し、これ以上の返済は見込めない」とし

## 荒川区オウム真理教施設への取材

広報部のオウム施設への取材も12回目になる。今回は公安調査庁が立ち入り検査をおこなったとの情報をもとに、荒川区の南千住と東日暮里の施設に取材した。南千住の施設は6月の取材地、台東区の入谷、松ヶ谷施設から距離にして5kmとはなれていない、日光街道に面した7階建ての建物だった。周辺は小規模なマンションやビルが多く戸建住宅は見当たらない。

2軒先の事務所まで話が聞けた。「オウム施設としての認識はな



南千住施設

く、普段も目立たず、まったく気づかなかつた」との事。「警察が大勢でくるので、おかしいとは感じていた」と話してくれた。

住民協議会は、平成16年10月20日の学習会で「地下鉄サリン事件被害者の会」代表高橋シズエさんに講演をしていただきました。その時から交流が始まり、協力関係を大事にしてきました。住民協議会では被害者の会を中心に開催する集会などにも参加し、救済法案の成立に向けて尽力してきました。救済法案が実現する事を願い今後も協力をしていきます。



東日暮里施設

東日暮里の施設は、商店が並ぶ賑やかな場所に建つマンションにあった。玄関にはハングル語で書かれた看板があり、異空間の雰囲気を持たせられていた。エレベーターから降りてきた女性に聞いてみたが、質問の趣旨すら理解できないようだった。隣のクリーニング屋の女性が、忙しい時間にも拘わらず親切に対応してくれた。やはり「警察がくるのでおかしい」と感じていたらしい。「3階にオウムが入居して他のフロアは全て韓国国籍の人が居住している」「3階からティッシュが捨てられ困っている」などと話してくれた。これからも情報を聞かせてもらう事を約束してきた。

今回の取材も含め、下町のオウム施設はワンフロアに1室だけのマンションに限られていた。一般住民を装いながら、住民との関係を拒絶し、密室で黙々と自分達の目的だけの為に働く、信者の姿を見たようで、どこか不気味さだけが残った。

**報** 二〇〇〇年十二月 住民協議会の結成とオウム解散・解体の活動に多大な貢献をされました、玉井良助氏(八十七歳)が十二月十日に逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。



## 「第2回リサイクルバザー」を開催します



今年4月に開催した「第1回リサイクルバザー」の時は、大勢の皆様が品物を寄付していただきありがとうございました。開催当日は、あつという間に品物がなくなるといった盛況でした。売上げ金は、私たちの活動資金として大切に使用させていただきました。

何よりも、これほど多くの皆様が、私たち住民協議会の活動に理解と協力を寄せて下さった事が嬉しく、オウム真理教への反対運動をしている私たちは、大きな勇気をいただきました。

2000年から始めた反対運動も8年目を迎えるようとしていきます。運動を支える大切な活動資金として「第2回リサイクルバザー」を来年4月12日(土)に開催することになりました。

未だ早い時期ですが、暮れに向かって家の中に眠っている不用品などを整理していただき、来年のバザーへの寄付をお願いいたします。

くわしくは「協議会ニュース」で順次お知らせしていきます。

## 今年の募金活動で感じた事 -署名・募金部-

署名・募金部では、今年も各地のお祭りやイベント会場で、募金活動をさせて頂きました。ご協力暖かいお気持ちありがとうございました。

ある会場では、旅行に出掛けた時の宿のタオルを大事に保管されていたものを、たくさん寄付してくださいました。又、別のイベント会場で、焼きそば販売をしていた時、北海道からきた青年は「昼は済ませたので焼きそばは買えないが、募金をします。頑張ってください」と言いながら募金をしてくださいました。ある会場では、「あなた達がオウムと対決しているのだから私たちは安心して暮らす事ができるんです」と激励してくれました。

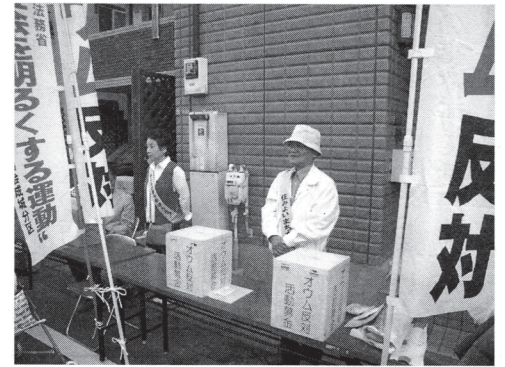
このような暖かい心が私たちには、十倍も百倍も千倍も力を与えてくれます。今後も暖かい応援よろしく願いいたします。又、イベントの主催者の方々には、募金活動スペースの確保から、募金集めにもご協力いただき紙面を借りてお礼申し上げます。

来年はオウム真理教に対する「観察処分」延長の署

名活動に取り組みます。募金とあわせて署名活動にもご協力お願いいたします。

### 平成 19 年度 募金活動一覧

- 4月 芦花公園花の丘フェスタ
- 7月 夏休み親と子の映画会・新樹苑盆踊り大会
- 8月 芦花公園駅前盆踊り大会・からすやま夏まつり・給田納涼盆踊り大会・粕谷区民センター涼み会・上北沢町会納涼盆踊り大会・りんれい広場盆踊り大会・八幡山町会納涼まつり・親子木工まつり
- 9月 烏山神社祭礼
- 10月 烏山区民センター文化祭・芦花まつり・わつとふれあい健康フェスタ・ファンの集い・自由広場
- 11月 上北沢区民センター文化祭・粕谷区民センター文化祭・笑顔世田谷



## 監視小屋だより

平成 12 年 12 月 19 日にオウム信者が世田谷区に転入届を提出し、信者達が次々と烏山に居住を始めてから 7 年が経過しました。地域住民は平成 12 年 12 月 26 日「オウム対策住民協議会」を立ち上げ、活動の大きな柱としたのが、監視活動です。平成 13 年 3 月には監視小屋を設置し、少人数ではありましたが本格的にGS、SS両マンションの監視を始めました。

現在この活動は 24 の団体（町会、自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会）の皆さんの協力を得て、1 年間のローテーションを組み毎日信者達の動向を監視し、日誌に記録しています。

<日誌より抜粋しました>

- ・マンションの上水道タンクの清掃らしく設備屋さん、職人さんが何人も出入りしていた。
- ・GSの玄関に 10 人（うち女 1 人）の人達がSSや監視小屋の方に歩いていく。声をかけたところ「見学です」とのこと。
- ・湘南ナンバーの車がSSの側に止まり、私服警官が声をかけ、7~8分で行った。
- ・ライトバンにてキャリーバック等を持った男女 6 人程がGSに入る。オウムの集会なのか、私服の

警察の人などが多く来ている（約 10 名）その後、ライトバンより荒木他 5~6 人がSSへ大きな荷物を持って入った。GSへも何人もの信者が入って行く。私服の警官に問い合わせ、今日は集会があると確認した。午後になると公安、私服警官の人も 6 人に減り両マンションへの出入りもなく静かになった。（10月28日）

- ・オウム信者の知人を訪ねると言って、夫妻がマンションに入った。10分後、この夫妻はご息子がオウム信者で毎日の様に説得に来ていると話してくれた。

毎日の日誌には、GS、SS共に宅配での荷物が非常に多く、出入りする車は東京近辺だけでなく湘南、習志野、長野等、他県に及んでいる。また、GS、SSで同じ日にそれぞれの（ひかりの輪・アーレフ）信者達が集会を開いていたこと、息子さんを脱会させようと烏山のオウム施設を訪れるご両親の姿など、切実な現実までもが記入されています。

監視活動は多くの皆さんの御協力があつてこそこの活動です。これからも御協力、御支援よろしく願いします。

※GS…GSハイム（ひかりの輪居住）

SS…サンサンマンション（アーレフ居住）

## 住民協議会活動報告

12月 3日（月） 協議会ニュース71号初校正  
12月 5日（水） 事務局会議  
12月10日（月） 協議会ニュース71号再校正

12月11日（火） 区主催オウム真理教問題講演会に参加  
12月17日（月） 協議会ニュース71号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。